

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

(省令で定める基準単位数を満たす単位分科目のみ抜粋)

学校名：学校法人三幸学園 大阪医療秘書福祉 & IT 専門学校

学科名：医療秘書科

授業科目名	単位数
疾患学 I	2
医療秘書概論 I	2
基礎看護学 II	2
合計	6

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	ビジネスマナーⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	ビジネスマナーⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	医療秘書科	1	30
使用教材	①サービス接客検定3級公式テキスト ②サービス接客検定3級実問題集 第52回～58回 ③新秘書特講 ④秘書検定3級実問題集 2025年度版 ⑤医療秘書技能検定実問題集 3級① 2025			出版社	①～④早稲田教育出版 ⑤つちや書店

科目の基礎情報②

授業のねらい	サービス接客、秘書業務の学習を通じてビジネスマナー全般の知識を習得する。 医療事務員として働くにあたり必要となる接客・マナーを身につける。		
到達目標	相手が感じがよいと思う言葉遣いや相手に満足と感じてもらえる行動ができる。 社会に出て働く人に求められる基本的な仕事の仕方・態度振る舞いができる。 愛想と愛嬌を理解し医療事務員として必要なマナーや考え方を理解して行動に移すことができる。		
評価基準	期末テスト：40％、小テスト：30％、授業態度（提出物含む）：30％		
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者		
関連資格	サービス接客実務検定、秘書技能検定、ビジネス文書技能検定、医療秘書技能検定		
関連科目	ビジネスマナーⅡ、医事業務実践ベーシックBⅠ、医事業務実践ベーシックBⅡ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	田村 亜希子	実務経験	○
実務内容	一般企業にて役員秘書として5年勤務 主に接客業務・スケジュールリング・会議資料作成などに従事		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション サービススタッフの資質 専門知識・一般知識	授業の流れ・到達目標について サービススタッフの資質について サービスの意義について
2	対人技能①	人間関係・接客知識・服装について
3	対人技能②	話し方について
4	実務技能①	問題処理・環境整備・金品管理について
5	実務技能② 検定対策①	社交業務について 検定に向けた対策①

6	検定対策②	検定に向けた対策②
7	検定対策③	検定に向けた対策③
8	検定対策④	検定に向けた対策④
9	マナー・接遇①	挨拶、話し方について
10	マナー・接遇②	電話応対について
11	マナー・接遇③	来客応対について
12	マナー・接遇④	交際業務について
13	必要とされる資質	職業人としての自覚と心構えについて
14	求められる能力 期末テスト	処理力と対人関係能力について 期末テストの実施
15	職務知識 総まとめ	秘書の機能について テストの振り返りと総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	ビジネスマナーⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	ビジネスマナーⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	医療秘書科	1	30
使用教材	①サービス接客検定3級公式テキスト ②サービス接客検定3級実問題集 第52回～58回 ③新秘書特講 ④秘書検定3級実問題集 2025年度版 ⑤医療秘書技能検定実問題集 3級① 2025			出版社	①～④早稲田教育出版 ⑤つちや書店

科目の基礎情報②

授業のねらい	サービス接客、秘書業務の学習を通じてビジネスマナー全般の知識を習得する。 医療事務員として働くにあたり必要となる接客・マナーを身につける。		
到達目標	相手が感じがよいと思う言葉遣いや相手に満足と感じてもらえる行動ができる。 社会に出て働く人に求められる基本的な仕事の仕方・態度振る舞いができる。 愛想と愛嬌を理解し医療事務員として必要なマナーや考え方を理解して行動に移すことができる。		
評価基準	期末テスト：40％、小テスト：30％、授業態度（提出物含む）：30％		
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者		
関連資格	サービス接客実務検定、秘書技能検定、ビジネス文書技能検定、医療秘書技能検定		
関連科目	ビジネスマナーⅠ、医事業務実践ベーシックBⅠ、医事業務実践ベーシックBⅡ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	田村 亜希子	実務経験	○
実務内容	一般企業にて役員秘書として5年勤務 主に接客業務・スケジュールリング・会議資料作成などに従事		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 職務知識	前期の振り返りと授業の流れ・到達目標について 効率的な仕事の進め方について
2	一般知識①	社会常識について
3	一般知識②	経営知識について
4	まとめ① 検定対策①	1回～3回のまとめ 医療秘書技能検定に向けた対策①
5	技能①	ビジネス文書について
6	技能②	メモとグラフについて

7	資料管理	資料管理について
8	まとめ②	5回～7回のまとめ
9	マナー・接遇振り返り	社会人に求められる態度・振る舞いについて
10	まとめ③	秘書技能検定の記述問題対策
11	まとめ④	理論・実技総まとめ
12	検定対策②	秘書技能検定に向けた対策①
13	検定対策③	秘書技能検定に向けた対策②
14	検定対策④ 期末テスト	秘書技能検定に向けた対策③ 期末テストの実施
15	総まとめ	テストの振り返りと総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	ペン字Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	ペン字Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	医療秘書科	1	30
使用教材	・3級合格のポイント ・あなたも書き文字美人にきれいな文字の書き方 ・心			出版社	・日本習字普及協会 ・二玄社

科目の基礎情報②

授業のねらい	字に関する、きれいに書く技術・知識を身に付ける。				
到達目標	・ペン字検定の合格を目指し効率よく美しく正確な文字を書くことができる。 ・余白、文字の大きさに注意して体裁がよく書くことができる。				
評価基準	テスト（小テスト）を含む60％・提出物30％・授業態度10％				
認定条件	・出席が総授業時間の3分の2以上である者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	硬筆書写技能検定 3級				
関連科目	医事業務実践ベーシックAⅠ AⅡ ・ビジネスマナーⅠⅡ				
備考	なし				
担当教員	内山 直美			実務経験	○
実務内容	硬筆・毛筆書写技能検定 大阪府審査委員				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	授業の説明、配布物 第1問の説明、練習 (理) 第7問について	オリエンテーション 授業の目標、内容、検定について
2	第2問の説明、練習 (理) 第8問について	(合) 第2問 楷書、行書の特徴について 筆順について
3	第3問の説明、練習 第4問の説明、練習	楷書と行書の違い 第1問との違いについて
4	第5問の説明、練習 (理) 第9問について	レイアウトの確認、練習 草書について
5	第6問の説明、練習 (理) 第10問について	レイアウトの確認、練習 間違い探し

6	検定全体の流れ、検定対策	検定の流れについて 検定ポイントチェック
7	模擬テスト	時間、手際について工夫していることを考察する
8	模擬テスト	丁寧に書くこと・工夫していることについて考察する
9	模擬テスト	模擬テストを振り返ってポイントを確認する 自分の注意している点について振り返る
10	検定振り返り 履歴書の説明	検定についての感想、問題点等を振り返り考察する 履歴書に必要な現住所、学歴、取得資格について
11	履歴書の説明、練習	手本を書き写し、良い印象を与える履歴書についてディスカッションを行う 鉛筆書き練習
12	履歴書の練習・封筒の書き方	全体の鉛筆書き練習（履歴書を書く上でのポイントの復習をする） 色々な大きさの封筒の書き方
13	履歴書の練習・御礼状の練習	ペン書き練習（鉛筆書きとペン書きとの違いを確認する） 御礼状の作成
14	履歴書の練習・御礼状の練習 期末テスト	履歴書の清書をする 御礼状の練習 期末テスト
15	まとめ	授業の振り返りをする

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	ペン字Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	ペン字Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	医療秘書科	1	15
使用教材	・3級合格のポイント ・あなたも書き文字美人にきれいな文字の書き方 ・心			出版社	・日本習字普及協会 ・二玄社

科目の基礎情報②

授業のねらい	字に関する、きれいに書く技術・知識を身に付ける。		
到達目標	・履歴書を誤字脱字なく、読みやすく書くことができる。 ・基本的なビジネス文章（メモなど）を読みやすく書くことができる。 ・正しく書くための、書体等の知識を説明することができる。		
評価基準	テスト（小テスト）を含む60％・提出物30％・授業態度10％		
認定条件	・出席が総授業時間の3分の2以上である者 ・成績評価が2以上の者		
関連資格	・硬筆書写技能検定 3級		
関連科目	・医事業務実践ベーシックAⅠ AⅡ ・ビジネスマナーⅠⅡ		
備考	なし		
担当教員	内山 直美	実務経験	○
実務内容	硬筆・毛筆書写技能検定 大阪府審査委員		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	ひらがな ひらがな字源	ひらがなの字源を知り、ひらがなの特徴を捉え正しく美しいひらがなを書く練習をする（P6～）
2	カタカナ	正しいカタカナを書く練習をする（P32～）
3	基本点画	漢字の基本となる9種類の基本点画を練習する（P46～）
4	字形の整え方	字形の整え方を①点画の組み立て方②部分の組み立て方③全体の整え方、3つのポイントに分けて理解し実際に書いてみる（P48～）
5	字形の整え方	

6	名前の練習	一般的な名前の練習をする 旧字体、書写体の説明 （P112～）
7	地名の練習 アルファベット・数字	都道府県名、都市名の練習をする （P104～） 自己流にならないよう数字、アルファベットを正確に書く （P96～99）
8	履歴書の練習 正しい文字と言葉使いの練習	前期に書いた文字とどれくらいの変化があるかを確認させる 実習や就職するにあたって必要になる書類の文字の練習をする
9	履歴書の練習 正しい文字と言葉使いの練習	前期に書いた文字とどれくらいの変化があるかを確認させる 実習や就職するにあたって必要になる書類の文字の練習をする
10	総復習	ひらがな、カタカナ、漢字の総復習をする 実習や就職活動で必要になる書類の文字の練習をする
11	一筆箋の書き方（はがきを書く）	手書きによるはがきの効果を考えて、様々な場面のはがきを書いてみる （P118～）
12	書き始め	新年度どんな1年にしたいかを考え、決意を漢字1文字に表し発表する
13	慶弔関連	のし袋、芳名帳の書き方の説明をする 実際の場面（結婚式受付等）を想定して書く （P138）
14	総合テスト	後期のまとめテストを実施する 自分の書く字がどのように変わったか自分自身で確認する
15	まとめ	授業の振り返りをする

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	パソコン演習Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	パソコン演習Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	医療秘書科 診療情報管理士科 くすりアドバイザー科	1	30
使用教材	30時間でマスター Office2019 パソコン技能検定 対策問題集 3級 パソコン技能検定 模擬問題集 3級 パソコン技能検定 対策問題集 2級			出版社	実教出版 三幸学園

科目の基礎情報②

授業のねらい	タッチタイピングを習得し、早く正確な入力を身につける。 また、Word・Excelの操作などを習得し、実際の業務に役立つスキルを身につける。				
到達目標	パソコン技能検定3級で求められる文字数（350字/10分）を入力できる。 ビジネス文書の入力をスムーズに作成できる。				
評価基準	テスト60%、課題提出/平常点40%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	パソコン技能検定3級				
関連科目	パソコン演習Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	尾関 二美代、伊藤 敬子			実務経験	○
実務内容	（尾関）大手食品製造業にて、経理事務の経験を積み、伝票作成・手形や小切手の管理、会計ソフトでの日常業務のインプットによる記帳作業などに従事 （伊藤）大学が実施するエクステンション講座において、Officeアプリケーションソフトの資格対策講座に従事(10年)				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	導入・概要・タッチタイピング	授業のねらい・年間の授業予定等説明・検定について・タッチタイピングの方法と必要性について Windowsの基本操作・タッチタイピング（ホームポジション）の練習
2	タッチタイピング Wordの基礎・基本入力	タッチタイピング（上段/下段）の練習・入力問題実施 変換、文節区切りの変更、再変換、ファンクションキー、記号と特殊文字、手書き入力（IMEパッド）について
3	入力練習 ビジネス文書の基本	入カスピード練習（10分）、フォント、フォントサイズ、文字修飾、コピー、貼り付け、切り取りについて ビジネス文書の基本型と入力の仕方を学ぶ
4	表作成	入カスピード練習（10分） 表作成の説明について
5	文書作成①	入カスピード練習（10分） 文書作成問題練習

6	文書作成②	入カスピード練習（10分） 文書作成問題練習
7	文書作成③	入カスピード練習（10分） 文書作成問題練習
8	パソコンの知識①	入カスピード練習（10分） 学科問題に必要なパソコン知識の説明
9	パソコンの知識②	入カスピード練習（10分） コンピュータ関連知識の説明
10	テスト（Word）	入力問題・文書作成問題の実施
11	Excelの概要・データ入力	入カスピード練習（10分） Excelの初期画面、基本データ入力、オートフィル機能、罫線、四則計算について
12	Excel基本復習、基本的な関数	入カスピード練習（10分） Excel基本復習・SUM、AVERAGE、MAX、MIN、絶対参照について
13	グラフ	入カスピード練習（10分） グラフの作成・グラフ要素について
14	表計算練習①	入カスピード練習（10分） 表作成問題練習
15	表計算練習②	入カスピード練習（10分） 表作成問題練習

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	パソコン演習Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	パソコン演習Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	医療秘書科 診療情報管理士科 くすりアドバイザー科	1	30
使用教材	30時間でマスター Office2019 パソコン技能検定 対策問題集 3級 パソコン技能検定 模擬問題集 3級 パソコン技能検定 対策問題集 2級			出版社	実教出版 三幸学園

科目の基礎情報②

授業のねらい	タッチタイピングを習得し、早く正確な入力を身につける。 また、Word・Excelの操作などを習得し、実際の業務に役立つスキルを身につける。				
到達目標	パソコン技能検定3級レベルのWord、Excel操作ができる。 パソコン技能検定2級レベルの操作を行うことができる。 PowerPointの基本的な操作ができる。				
評価基準	テスト60%、課題提出/平常点40%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	パソコン技能検定 3 級				
関連科目	パソコン演習Ⅰ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	尾関 二美代、伊藤 敬子			実務経験	○
実務内容	(尾関) 大手食品製造業にて、経理事務の経験を積み、伝票作成・手形や小切手の管理、会計ソフトでの日常業務のインプットによる記帳作業などに従事 (伊藤) 大学が実施するエクステンション講座において、Officeアプリケーションソフトの資格対策講座に従事(10年)				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	検定に向けて・前期復習	検定試験の実施手順・数式印刷の説明 入力問題、文書作成問題、表計算問題
2	パソコン検定3級対策①	計測して練習 学科問題、入力問題、文書作成問題、表計算問題
3	パソコン検定3級対策②	計測して練習 学科問題、入力問題、文書作成問題、表計算問題
4	パソコン検定3級対策③	計測して練習 学科問題、入力問題、文書作成問題、表計算問題

5	パソコン検定3級対策④	計測して練習 学科問題、入力問題、文書作成問題、表計算問題
6	パソコン検定3級対策⑤	計測して練習 学科問題、入力問題、文書作成問題、表計算問題
7	パソコン検定3級対策⑥	計測して練習 学科問題、入力問題、文書作成問題、表計算問題
8	Wordのいろいろな機能①	入カスピード練習（10分） 図形・ワードアート・画像について
9	Wordのいろいろな機能②	入カスピード練習（10分） 段組み、ドロップキャップ、割注について
10	Excelのいろいろな関数①	入カスピード練習（10分） COUNT、RANK.EQ、ROUND、IFについて
11	Excelのいろいろな機能②	入カスピード練習（10分） 条件付き書式、複合グラフについて
12	テスト（Excel）	入カスピード練習（10分） Excelの確認テスト・表計算問題練習
13	PowerPointの操作①	PowerPointについての基本操作について
14	PowerPointの操作②	画面切り替え、アニメーション、ハイパーリンクについて
15	PowerPoint作成	PowerPoint作成練習

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	プレゼンテーション実践Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	プレゼンテーション実践Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	医療秘書科	1	15
使用教材	なし			出版社	—

科目の基礎情報②

授業のねらい	就職活動に向けて、自己開示・自己分析の方法を理解する。 傾聴力・思考力・表現力を身につける。				
到達目標	自分自身を理解し、自己分析ができる。 身につけた表現力を活かし、人前で堂々と話すことができる。				
評価基準	発表：60％　小テスト：20％　提出物：20％				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	なし				
関連科目	アビリティUPⅠ・アビリティUpⅡ・ビジネスマナーⅠ・ビジネスマナーⅡ・就職対策Ⅰ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	阿部　笑里、島崎　ももか			実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション プレゼンテーションとは	授業の概要について 傾聴（アクティブリスニング）について
2	話す時の心構えと基本	思考力と表現力について
3	表情（表現力）	第一印象(メラビアンの法則)と表情について 即題スピーチについて
4	思考力①	思考力について ストーリー構成の型について
5	思考力②、表現力	PREP法について show&tellについて
6	自己分析	自己分析について
7	ディスカッション	グループディスカッションについて
8	業界・職種・仕事内容 研究①	業界・職種・仕事内容の研究について①

9	業界・職種・仕事内容 研究②	業界・職種・仕事内容の研究について②
10	業界・職種・仕事内容 研究③	業界・職種・仕事内容の研究について③
11	業界・職種・仕事内容 研究④	業界・職種・仕事内容の研究について④
12	業界・職種・仕事内容 研究⑤	業界・職種・仕事内容の研究について⑤
13	まとめ	思考力・表現力評価 他者評価について
14	期末テスト	期末テストの実施
15	総まとめ	テストの振り返り・総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	プレゼンテーション実践Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	プレゼンテーション実践Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	医療秘書科	1	15
使用教材	プリント			出版社	—

科目の基礎情報②

授業のねらい	就職活動に向けて、自己開示・自己分析の方法を理解する。 傾聴力・思考力・表現力を身につける。				
到達目標	自分自身を理解し、自己分析ができる。 身につけた表現力を活かし、人前で堂々と話すことができる。				
評価基準	発表：60％　小テスト：20％　提出物：20％				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	なし				
関連科目	アビリティUPⅠ・アビリティUpⅡ・ビジネスマナーⅠ・ビジネスマナーⅡ・就職対策Ⅰ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	阿部　笑里、島崎　ももか			実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 実習・就職指導①	授業の概要について 業界研究、グループディスカッションについて実践①
2	実習・就職指導②	業界研究、グループディスカッションについて実践②
3	実習・就職指導③	業界研究、グループディスカッションについて実践③
4	実習・就職指導④	業界研究、グループディスカッションについて実践④
5	実習・就職指導⑤	業界研究、グループディスカッションについて実践⑤
6	自分自身を知る①	ジョハリの窓について 自己PR文作成について
7	自分自身を知る②	自己PR発表
8	自己分析①	自己分析の理解
9	自己分析②	自己分析づくり

10	模擬面接	模擬面接
11	実習・就職指導⑥	業界研究・模擬面接・グループディスカッションについて実践①
12	実習・就職指導⑦	業界研究・模擬面接・グループディスカッションについて実践②
13	実習・就職指導⑧	業界研究・模擬面接・グループディスカッションについて実践③
14	期末テスト	期末テストの実施
15	総まとめ	テストの振り返りと総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	未来デザインプログラムⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	未来デザインプログラムⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	医療秘書科	1	15
使用教材	7つの習慣Ⅰテキスト 夢のスケッチブック (WEBアプリ)			出版社	FCEエデュケーション

科目の基礎情報②

授業のねらい	7つの習慣を体系的に学ぶことを通じ、三幸学園の教育理念である「技能と心の調和」のうち「心」の部分身を身につける。				
到達目標	・7つの習慣について、自身の言葉で説明することができる。 ・7つの習慣を自らの生活と紐づけ、前向きな学習態度として体現することができる。				
評価基準	テスト：20% 授業態度：40% 提出物：40%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	なし				
関連科目	なし				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	朝日出 孝太、佐々木、亮太			実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	専門学校へようこそ！	「未来デザインプログラム」とは何か学ぶ 夢のスケッチブックの使い方を学ぶ
2	SANKOワークコンピテンス	SANKOワークコンピテンスの理解を深める
3	7つの習慣とは？	7つの習慣とは何か学ぶ 夢のスケッチブックを使って日誌を書くことの意味を学ぶ
4	自分制限パラダイムを解除しよう！	自分制限パラダイムの意味について学ぶ
5	自信貯金箱	自信貯金箱の概念を理解する 自分自身との約束を守る大切さを学ぶ
6	刺激と反応	「刺激と反応」の考え方を理解する 主体的に判断・行動していくことの大切さを学ぶ
7	言霊～ことだま～	言葉の持つ力や自分の言動が、描く未来や成功に繋がっていくことを学ぶ
8	影響の輪	集中すべき事、集中すべきでない事を明確にすることの大切さを学ぶ
9	選んだ道と選ばなかった道	自分が決めたことに対して、最後までやり遂げる大切さを学ぶ

10	人生のビジョン	入学時に考えた「卒業後の姿」をより具体的に考え、イメージする
11	大切なことは？	なりたい自分になるために優先すべき「大切なこと」には、夢の実現や目標達成に直接関係することだけではなく、間接的に必要なこともあることを学ぶ
12	一番大切なことを優先する	スケジュールの立て方を学ぶ 自らが決意したことを実際の行動に移すことの大切さを学ぶ
13	時間管理のマトリクス	第2領域（緊急性はないが重要なこと）を優先したスケジュール管理について学ぶ
14	私的成功の振り返り	前期授業内容（私的成功）の振り返りを行う
15	リーダーシップを発揮する	リーダーシップを発揮するためには、「主体性」が問われることを学ぶ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	未来デザインプログラムⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	未来デザインプログラムⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	医療秘書科	1	15
使用教材	7つの習慣Jテキスト 夢のスケッチブック (WEBアプリ)			出版社	FCEエデュケーション

科目の基礎情報②

授業のねらい	7つの習慣を体系的に学ぶことを通じ、三幸学園の教育理念である「技能と心の調和」のうち「心」の部分を身につける。				
到達目標	・7つの習慣について、自身の言葉で説明することができる。 ・7つの習慣を自らの生活と紐づけ、前向きな学習態度として体现することができる。				
評価基準	テスト：20% 授業態度：40% 提出物：40%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	なし				
関連科目	なし				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	朝日出 孝太、佐々木 亮太			実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	信頼貯金箱	信頼貯金箱の概念を理解し、周囲から信頼されるための考え方を学ぶ
2	割れた窓の理論	規則を守る大切さ、重要性を理解する
3	Win-Winを考える	お互いがハッピーになれる方法を考えることの大切さを学ぶ
4	豊かさマインド	人を思いやることは自分自身のためでもあることを学ぶ
5	理解してから理解される	人の話の聴き方を考え、「理解してから理解される」という考え方があるということを学ぶ
6	相乗効果を発揮する	人と違いがあることに価値があることを学ぶ
7	自分を磨く	自分を磨くことの大切さ、学び続けることの大切さを考える
8	未来は大きく変えられる	人生は選択の連続であり、未来は自分の選択次第であることを学ぶ
9	人生ビジョンを見直そう	将来のなりたい姿を描き、同時にその生活の実現にはお金が必要であることを学ぶ 現実的なライフプランの大切さを理解する

10	未来マップを作ろう①	未来の自分の姿（仕事、家庭、趣味など）を写真や絵で表現するマップを作成し、将来の夢を実現するモチベーションを高める
11	未来マップを作ろう②	未来マップの発表を通して、自身の夢を実現する決意をする
12	感謝の心	人間関係構築/向上の基本である感謝の心について考える
13	7つの習慣授業の復習	7つの習慣の関連性を学ぶとともに、私的成功が公的成功に先立つことを理解する
14	未来デザインプログラムの振り返り	7つの習慣など、未来デザインプログラムで学んだことを復習（知識確認）する
15	2年生に向けて	1年後の自分の姿を鮮明にし、次年度への目標設定を考える

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	就職対策Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	就職対策Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	医療秘書科	1	15
使用教材	TAKEOFF/ジョブカード			出版社	—

科目の基礎情報②

授業のねらい	就職活動の準備や働くことに対する意識を醸成する 現場をイメージできる実習への準備をする				
到達目標	実習をより多いものにするための準備ができる 実習後の課題を発見し、今後の課題や授業への取り組み方を深めていく すぐに就職活動が出来る状態(身だしなみ・履歴書・面接・意欲等)になっている				
評価基準	授業態度・履歴書の完成度・模擬面接の点数・レポートの作成 等				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	なし				
関連科目	医事業務実践ベーシックAⅡ・医事業務実践ベーシックBⅡ・医事業務実践ベーシックC・プレゼンテーション実践Ⅱ・医療機関実習Ⅰ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	阿部 笑里			実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	就職対策の授業の位置付け説明
2	医療機関実習Ⅰにむけて	実習への心構えと準備 基礎的知識の確認
3	実習振り返り ①	実習で学んだこと、今後の就職活動で必要なこと、自身に足りないことの確認
4	実習振り返り ②	実習の振り返り 次年度の実習先・就職希望先の検討
5	医療機関実習Ⅱにむけて ①	医療機関実習Ⅱの目的理解
6	医療機関実習Ⅱにむけて ②	実習先選定の共有・実習先希望調査についての準備
7	就職活動の流れ ①	就職活動の基本的な流れを理解する

8	就職活動の流れ ②	就職活動のルール（学校求人・個人活動・併願受験等）を理解する
9	自己分析	自分史を作成する
10	履歴書・ジョブカード作成 ①	履歴書・ジョブカードの作成について
11	履歴書・ジョブカード作成 ②	履歴書・ジョブカードの添削・再作成について
12	身だしなみについて	実習・就職における身だしなみの確認
13	面接練習 ①	面接試験に向けての対策 面接の仕方・準備の理解
14	面接練習 ②	面接試験に向けての対策 面接の仕方の実践
15	まとめ	振り返り・進級後の目標設定

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	基礎看護学Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	基礎看護学Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	医療秘書科	4	60
使用教材	①看護学入門 1 人体のしくみと働き ②新医療秘書医学シリーズ⑦ 医療用語 ③パッとひける医学略語・看護略語 ④医療秘書技能検定実問題集 3級① 2025 ⑤医療秘書技能検定実問題集 3級② 2025			出版社	①メヂカルフレンド社 ②建帛社 ③照林社 ④⑤つちや書店

科目の基礎情報②

授業のねらい	医学の基本である解剖学・生理学の基礎知識を理解する。				
到達目標	医療機関で活かせる医学の基礎知識を理解し、必要に応じて説明できる。				
評価基準	小テスト：40% テスト：40% 授業態度：20%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	医療秘書技能検定				
関連科目	基礎看護学Ⅱ（解剖・生理）検定対策・疾患学Ⅰ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	平野 加奈子、目片 絹子			実務経験	○
実務内容	（平野）看護師として総合病院に5年6ヶ月従事した後、訪問診療帯同看護師として1年6ヶ月従事 （目片）急性期病院で3年（現在も勤務）				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	第1章総論	学習のねらい、到達目標、評価基準、医療秘書技能検定などの説明 解剖学・生理学概要、人体各部の名称、位置や方向を示す用語について
2	第2章 人体の構成 第3章 人体の器官系	人体を構成する細胞・組織・器官・器官系について
3	第4章 運動器系①	骨の形状や構造について
4	第4章 運動器系②	筋肉の解剖と生理について
5	第5章 体液	血液成分、性状、血液凝固、血液型、組織液、リンパについて
6	第6章 循環器系①	心臓の構造、機能について

7	第6章 循環器系②	血管、リンパ管およびリンパ節の構造について
8	第6章 循環器系③	血液循環について
9	第7章 呼吸器系	呼吸器系の構造、機能について
10	第8章 消化器系①	各消化器官の位置や構造、機能について①
11	第8章 消化器系②	各消化器官の位置や構造、機能について②
12	第8章 消化器系③	消化・吸収のメカニズム、エネルギー代謝について
13	第10章 泌尿器系	腎臓、尿路の構造と機能、尿生成と排尿のメカニズムについて
14	第12章 内分泌系	内分泌腺の構造と機能、ホルモン作用について
15	総まとめ、テスト	テスト実施と総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	基礎看護学Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	基礎看護学Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	医療秘書科	2	30
使用教材	①看護学入門 1 人体のしくみと働き ②新医療秘書医学シリーズ⑦ 医療用語 ③パッとひける医学略語・看護略語 ④医療秘書技能検定実問題集 3級① 2025 ⑤医療秘書技能検定実問題集 3級② 2025			出版社	①メヂカルフレンド社 ②建帛社 ③照林社 ④⑤つちや書店

科目の基礎情報②

授業のねらい	医学の基本である解剖学・生理学の基礎知識を理解する。		
到達目標	医療機関で活かせる医学の基礎知識を理解し、必要に応じて説明できる。		
評価基準	小テスト：40％　テスト：40％　授業態度：20％		
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者		
関連資格	医療秘書技能検定		
関連科目	基礎看護学Ⅰ（解剖・生理）検定対策・疾患学Ⅰ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する		
担当教員	平野　加奈子、目片　絹子	実務経験	○
実務内容	（平野）看護師として総合病院に5年6ヶ月従事した後、訪問診療帯同看護師として1年6ヶ月従事 （目片）急性期病院で3年（現在も勤務）		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 第13章 神経系①	医療秘書技能検定概要、学習評価基準などの説明 神経系の構造と機能について
2	第14章 感覚器系①	感覚器の構造、機能について
3	検定対策	過去問題の実施、検定問題の傾向と対策について
4	検定対策	過去問題の実施、検定問題の傾向と対策について
5	検定対策	過去問題の実施、検定問題の傾向と対策について
6	検定振り返り	実施された検定の振り返り、今後の授業展開を説明
7	第9章 体温	体温の定義、体温調節のメカニズムについて

8	第11章 生殖器系	男性・女性生殖器の構造、生殖の生理について
9	第7章 呼吸器系	呼吸器系の構造と機能の復習
10	第6章 循環器系	循環器系の構造と機能の復習
11	第8章 消化器系	消化器系の構造と機能の復習
12	第5章 体液	血液成分、血液凝固の復習
13	まとめ	これまでの復習
14	期末テスト	期末テストの実施
15	総まとめ	テストの振り返り、総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	疾患学Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	疾患学Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	医療秘書科	2	30
使用教材	①新医療秘書医学シリーズ③ 臨床医学Ⅰ内科 ②新医療秘書医学シリーズ④ 臨床医学Ⅱ外科 ③新医療秘書医学シリーズ⑤ 検査・薬理学			出版社	建帛社

科目の基礎情報②

授業のねらい	学んだ人体のしくみを基礎に、疾病の成り立ちや診断（検査）、治療法を内科・外科の両面より習得する。		
到達目標	現場でよく使われている医療用語を説明することが出来る。		
評価基準	小テスト：40％　テスト：40％　授業態度：20％		
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者		
関連資格	医療秘書技能検定		
関連科目	基礎看護学Ⅰ・基礎看護学Ⅱ・医事業務実践ベーシックB		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	鶴見　健	実務経験	○
実務内容	登録販売者としてドラッグストアで4年間、調剤薬局で3年間、調剤併設ドラッグストアで2年従事		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	はじめに 1. 内科・外科とは	学習の目的・目標・進め方の説明 内科的治療（p1）と外科で扱う疾病（p2）の特徴について
2	検定対策	医療秘書技能検定に向けての対策
3		
4		
5		
6	2. 呼吸器疾患	主な疾患 呼吸器感染症、インフルエンザ、肺炎、結核など
7		

8		
9	3. 循環器疾患	主な疾患 高血圧症、虚血性心疾患 - 狭心症、心筋梗塞
10		
11		主な疾患
12	4. 消化器疾患	口腔疾患、食道疾患、逆流性食道炎、食道静脈瘤、食道癌
13		
14	テスト	まとめテスト
15	まとめ 5. 血液疾患	テスト返却と振り返り 主な疾患貧血、白血病、血液凝固異常

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	医療秘書概論Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	医療秘書概論Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	医療秘書科・診療情報管理士科	2	30
使用教材	①医療事務テキストⅠ②診療点数早見表 ③医療概論④医療秘書検定問題集3級①② ⑤検定過去問題集⑥窓口事務必携ハンドブック			出版社	①⑤ユアサポート②⑥医学通信社 ③建帛社④つちや書店

科目の基礎情報②

授業のねらい	病院実習に役立ち、就職後には即戦力となる医療事務の知識の習得をする		
到達目標	医療事務員として必要な法律や公費の知識を説明することができる 医療事務検定 1 級、医療秘書検定 3 級（以下MS検定と表記する）に合格することができる		
評価基準	評価テスト50％ 授業態度30％ 小テスト20％		
認定条件	・ 出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・ 成績評価が2以上の者		
関連資格	医療事務検定1級・医療秘書検定3級		
関連科目	医科医療事務 AⅠ、AⅡ・BⅠ、BⅡ 医事業務実践ベーシックAⅠ、AⅡ・B		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する		
担当教員	松下 尚子	実務経験	○
実務内容	病院・クリニックでの医療事務員経験（24 年）		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	医療秘書概論とは	MS検定に向けて 医療保険の概要
2	健康保険法	医療保険の概要 医療の仕組み、医療保険の種類、給付割合と患者負担割合
3	健康保険法	医療保険の給付 健康保険法の目的、医保の給付、保険診療の範囲、保険外併用療養費
4	健康保険法	医療保険の給付 高額療養費、その他の現金給付
5	医学と医療	医学と医療の歴史の違い、医療秘書が把握すべきもの
6	医療の実践	病気の定義と分類・病気の原因・診断・治療、プライマリケア・DPCによる疾病分類法
7	医療法・医師法	医療法と医療提供施設、医療提供施設の適宜と分類
8	病院管理	医療情報の提供

9	病院管理	病院・診療所の開設、管理等
10	医療関係者と法律	医師・歯科医師
11	医療関係者と法律	その他の医療関係者
12	労災・自賠	制度の目的・しくみ給付内容等
13	関連法規	療養担当規則
14	まとめ	まとめ
15	まとめ	これまでのまとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	医療秘書概論Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	医療秘書概論Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	医療秘書科・診療情報管理士科	2	30
使用教材	①医療事務テキストⅠ②診療点数早見表 ③医療概論④医療秘書検定問題集3級①② ⑤検定過去問題集⑥窓口事務必携ハンドブック			出版社	①⑤ユアサポート②⑥医学通信社 ③建帛社④つちや書店

科目の基礎情報②

授業のねらい	病院実習に役立ち、就職後には即戦力となる医療事務の知識の習得をする		
到達目標	医療事務員として必要な法律や公費の知識を説明することができる 医療事務検定 1 級、医療秘書検定 3 級（以下MS検定と表記する）に合格することができる		
評価基準	評価テスト50％ 授業態度30％ 小テスト20％		
認定条件	・ 出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・ 成績評価が2以上の者		
関連資格	医療事務検定1級・医療秘書検定3級		
関連科目	医科医療事務 AⅠ、AⅡ・BⅠ、BⅡ 医事業務実践ベーシックAⅠ、AⅡ・B		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する		
担当教員	松下 尚子	実務経験	○
実務内容	病院・クリニックでの医療事務員経験（24 年）		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	医療秘書の現状・役割	前期復習 医療秘書の現状と将来・役割と業務
2	医療秘書の実務	医療機関が求める人材、守秘義務、人間関係とコミュニケーション、各部門業務
3	実習前対策	医療秘書実務・医療とICT
4	MS検定3級対策	MS検定問題集①、②
5	MS検定3級対策	
6	MS検定3級対策	
7	医事検1級対策	医療事務検定過去問題集
8	医事検1級対策	

9	公費負担医療	公費負担医療の概要 生保・原爆・感染症（結核）・児童福祉・難病・精神・各自治体の公費
10	公費負担医療	
11	公費負担医療	
12	死と医療	医療関連法規をめぐる諸課題
13	現代医療の課題	ターミナルケア、末期患者の問題とニーズ、緩和ケアと尊厳死
14	まとめ	まとめ
15	まとめ	これまでのまとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	医事ＣＰ・電子カルテ基礎		
必修選択	選択	(学則表記)	医事ＣＰ・電子カルテ基礎		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	医療秘書科	1	30
使用教材	コンピュータ入力練習用「カルテ例題集」 診療点数早見表、早見表、医療事務テキストⅡ			出版社	ケアアンドコミュニケーション

科目の基礎情報②

授業のねらい	医療事務コンピュータの役割と活用性を理解し、医療事務で学んだ診療報酬算定の知識を基に医事コンピュータを用いて正確な算定を行う。 電子カルテの入力基礎を習得する。				
到達目標	医療事務コンピュータの役割と必要性を説明できるようになる。 コンピュータを用いて正しく請求を算定できるようになる。 電子カルテの基礎的な入力ができるようになる。				
評価基準	テスト70％ 小テスト・提出物20％ 授業態度10％				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	医事コンピュータ技能検定試験 3級、医事コンピュータ技能検定試験 2級、電子カルテ検定				
関連科目	医科医療事務AⅠ・医科医療事務AⅡ・医科医療事務BⅠ・医科医療事務BⅡ・ 医事CP・電子カルテ応用Ⅰ・医事CP・電子カルテ応用Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	松下 尚子、並河 さより			実務経験	○
実務内容	(松下) 病院・クリニックでの医療事務員経験 (24 年) (並河) 病院での医療事務員 (3年)、クリニック受付事務 (4年)				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	・医事ＣＰの授業目的・概要説明 ・ＣＰ基本操作（患者登録まで）	・医療機関における医事ＣＰの役割と活用性 ・システムの起動・終了操作、ＵＳＢの取り扱い
2	外来患者入力①	病名・診察料・医学管理・投薬・doの入力
3	外来患者入力②	注射・処置・麻酔・手術の入力
4	外来患者入力③	検査・病理・画像診断の入力
5	外来患者入力④	複初・複再、処方箋、画像連続・特殊撮影の入力
6	外来患者入力⑤	伝票形式の入力演習①（検定対策）
7	外来患者入力⑥	外来患者入力のまとめ

8	外来患者入力⑦／テスト	外来患者入力のまとめ／テスト
9	入院患者入力①	・ 外来と入院の相違 ・ 食事・入院料の入力
10	入院患者入力②	入院患者入力演習①
11	入院患者入力③	入院患者入力演習②
12	C P 関連	・ C P 内の内部処理 ・ C P の五大装置と機能 ・ 周辺装置の種類と特徴 ・ インターフェースの種類と特徴 ・ ソフトウェアの種類と特徴 ・ オペレーティングシステムの種類と特徴 ・ アプリケーションソフトの基本操作
13	小テスト・まとめ	CP関連小テスト・入院小テスト・総まとめ
14	電子カルテ①	・ 電子カルテの基本操作 ・ オーダリングシステムの役割 ・ S O A P の意味 ・ 問診表の入力
15	電子カルテ②	・ カルテ入力（症状・所見・病名・投薬・注射・処置・検査・画像診断等）

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	医事業務実践ベーシックAⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	医事業務実践ベーシックAⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	医療事務科・医療秘書科・診療情報管理士科	1	15
使用教材	①新版 医療の接遇 ②窓口事務必携ハンドブック ③医療事務テキストⅠ			出版社	①医療タイムズ社 ②医学通信社 ③ユアサポート

科目の基礎情報②

授業のねらい	医療現場で求められている窓口対応を実践できるスキルを身につける				
到達目標	医療現場で求められている窓口対応を実践できるスキルを身につける 診療所、病院での受付のポイントを述べることができる ケースワークや様々なシミュレーションを通じて、自分なりに表現することができる				
評価基準	発表・実践：40%、期末テスト：30%、授業態度：20%、小テスト：10%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	なし				
関連科目	医科医療事務AB・医療秘書概論ⅠⅡ・医療秘書総論ⅠⅡ・ビジネスマナーⅠⅡ・ビジネススキルⅠⅡ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	倉柳 直子			実務経験	○
実務内容	病院にて、医療事務員として28年従事				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	・ベーシックAⅠについて
2	医療機関ってどんなところ？ 各種医療保険について	・医療機関について ・各種医療保険について
3	受付対応① 【基本】	・病院・診療所での受付の違い ・各種医療保険について
4	受付対応② 【基本】	・初診受付について マイナ保険証の取り扱い・資格確認書のお預かり 問診票の記入 診察券の発行
5	受付対応③ 【基本】	・再診受付について マイナ保険証の取り扱い・資格確認書・診察券のお預かり・お返しまで
6	受付対応 実践練習	・初診・再診の受付シミュレーション マイナ保険証の取り扱い、問診票の記入依頼まで
7	受付シミュレーション	・受付シミュレーション実践 テスト
8	受付対応① 【応用】	・初診時におこりやすいトラブルについて

9	受付対応② 【応用】	・再診時におこりやすいトラブルについて
10	受付対応③ 【応用】	・クレーム対応について 待ち時間など
11	受付対応 【接遇マナー】	・医療人としての接遇
12	受付シミュレーション	・シミュレーション実践 テスト
13	受付シミュレーション	・シミュレーション実践 テスト
14	期末まとめ	・前期評価ペーパーテスト
15	前期振り返りと総まとめ	・シミュレーション実践の振り返り

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	医事業務実践ベーシックAⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	医事業務実践ベーシックAⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	医療事務科・医療秘書科・診療情報管理士科	1	15
使用教材	①新版 医療の接遇 ②窓口事務必携ハンドブック ③医療事務テキストⅠ			出版社	①医療タイムズ社 ②医学通信社 ③ユアサポート

科目の基礎情報②

授業のねらい	医療現場で求められている窓口対応を実践できるスキルを身につける				
到達目標	医療現場で求められている窓口対応を実践できるスキルを身につける 診療所、病院での受付のポイントを述べることができる ケースワークや様々なシミュレーションを通じて、自分なりに表現することができる 社会人としての基本マナーを身につける				
評価基準	発表・実践：40%、期末テスト：30%、授業態度：20%、小テスト：10%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	なし				
関連科目	医科医療事務AB・医療秘書概論ⅠⅡ・医療秘書総論ⅠⅡ・ビジネスマナーⅠⅡ・ビジネススキルⅠⅡ 医事業務実践ベーシックB				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	倉柳 直子			実務経験	○
実務内容	病院にて、医療事務員として28年従事				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	後期の目標 受付対応① 【医療費助成制度】	・前期復習 ・「乳児医療証」「子ども医療証」「ひとり親医療証」について
2	会計対応① 【金銭授受】	・金銭授受について ・患者様の呼び出し
3	実習に向けて	・病院実習に向けて ・社会人としてのマナー
4	実習の振り返り	・実習での振り返りワーク
5	受付対応② 【労災・自賠責】	・労働者災害補償制度 ・自賠責保険制度
6	受付対応シミュレーション	・高齢者・労災・自賠責 シミュレーション実践
7	会計対応② 【各種書類】	・診断書・証明証・紹介状の会計について
8	会計対応③ 【領収書・明細書】	・時間外診療 ・電話再診について

9	会計対応シミュレーション練習	・会計シミュレーション実践準備
10	会計シミュレーションまとめ	・会計シミュレーション実践
11	期末まとめ	・後期評価ペーパーテスト
12	シミュレーション大会実践準備	・各テーマを決め、グループに分かれてシミュレーション実践
13	シミュレーション大会実践準備	・各テーマを決め、グループに分かれてシミュレーション実践
14	シミュレーション大会実践準備	・各テーマを決め、グループに分かれてシミュレーション実践
15	後期の振り返りと総まとめ	後期のまとめと1年間の振り返り

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	医事業務実践ベーシックBⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	医事業務実践ベーシックBⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	医療秘書科	1	15
使用教材	①新医療秘書医学シリーズ③ 臨床医学Ⅰ 内科 ②新医療秘書医学シリーズ④ 臨床医学Ⅱ 外科 ③新医療秘書医学シリーズ⑤ 検査・薬理学			出版社	建帛社

科目の基礎情報②

授業のねらい	医療現場で求められている窓口対応を実践するための医学的知識とスキルを身につける		
到達目標	医療現場での対応例を習得し、疾患学と診療報酬を結びつけて説明する事が出来る。		
評価基準	実践：40％、期末テスト：30％、授業態度：20％、小テスト：10％		
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者		
関連資格	なし		
関連科目	基礎看護学Ⅰ（解剖・生理）検定対策・基礎看護学Ⅱ（解剖・生理）検定対策・疾患学Ⅰ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する		
担当教員	野村 怜子	実務経験	○
実務内容	大学病院・介護施設、訪問看護ステーションで看護師として10年、公立の小学校・中学校でスクールカウンセラーとして1年（4校）		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	はじめに 感染症の理解	授業の目的・目標・進め方の説明 各種ウイルスの感染経路、スタンダードプリコーションについて
2	感染症対策① (空気、飛沫感染)	手指消毒、マスクの正しいつけ方について
3	感染症対策② (飛沫、接触、血液媒介感染)	感染経路別予防策について 手袋、防護具の装着法、リネンの取り扱いについて
4	感染症対策③	医療器具の洗浄、滅菌について
5	感染症に対する対応実践	感染疑いのある患者来院時の対応実践を行う 感染疑いのある患者来院時の事前準備、到着後対応について
6	小テスト（感染症対策）	感染対策が円滑にできるか確認テストを行う

7	車いす、つえ使用実践	車いすの出し方、移動方法、たたみ方について
8		車いすの出し方、移動、たたみ方の実践を行う
9	疾患別対応① (高血圧、糖尿病、心疾患)	高血圧、糖尿病患者の症状、対応策について
10		心疾患患者の症状、対応策について 胸痛の種類について
11	疾患別対応②（消化器疾患） シミュレーション実践準備	消化器疾患の受診に適した診療科案内について
12		指定難病（潰瘍性大腸炎、クローン病）の症状、対応策（検査、投薬、食事）症状悪化時の対応、 内視鏡検査の注意点、人工肛門の説明、来院時に必要なものについて
13		胃、十二指腸疾患患者の症状（検査、投薬、食事）について ヘリコバクターピロリ検査について
14	期末テスト	疾患毎の対応策が理解できているかテストを行う
15	総復習	これまでの内容を復習する

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	医事業務実践ベーシックBⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	医事業務実践ベーシックBⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	医療秘書科	1	15
使用教材	①新版 医療の接遇			出版社	①医療タイムズ社

科目の基礎情報②

授業のねらい	医療現場で求められている窓口対応を実践できるスキルを身につける。				
到達目標	医療現場で求められている患者様対応ができる。				
評価基準	発表・実践：40%、期末テスト：30%、授業態度：20%、小テスト：10%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	サービス接遇実務検定、秘書技能検定、ビジネス文書技能検定				
関連科目	ビジネスマナーⅠ・ビジネスマナーⅡ・医事業務実践ベーシックBⅠ・医事業務実践ベーシックAⅠ・医事業務実践ベーシックAⅡ・医事業務実践ベーシックC				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	—			実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 前期の振り返り	授業の概要について 前期の内容を復習
2	話の聞き方	どのような話の聴き方だと相手が心を開きたくなるかを実践
3	患者さまの心理	患者様の心理とその対応について
4	対応のポイント①	場面に応じた配慮や、臨機応変に対応することについて実践①
5	対応のポイント②	場面に応じた配慮や、臨機応変に対応することについて実践②
6	対応のポイント③	場面に応じた配慮や、臨機応変に対応することについて実践③
7	まとめ 会計対応	1回から6回のまとめ 会計対応の実践
8	社会人としての常識①	一般的なビジネスマナーについて
9	社会人としての常識②	報告、連絡、相談について、遅刻、早退、欠勤について

10	社会人としての常識③	来客対応について
11	期末テスト	期末テストの実施
12	1年の振り返り①	1年の総まとめ①
13	1年の振り返り②	1年の総まとめ②
14	1年の振り返り③	1年の総まとめ③
15	1年の振り返り④	1年の総まとめ④

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	医事業務実践ベーシックC		
必修選択	選択	(学則表記)	医事業務実践ベーシックC		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	医療秘書科	1	15
使用教材	①新医療秘書医学シリーズ③ 臨床医学Ⅰ 内科 ②新医療秘書医学シリーズ④ 臨床医学Ⅱ 外科 ③新医療秘書医学シリーズ⑤ 検査・薬理学			出版社	建帛社

科目の基礎情報②

授業のねらい	医療現場で求められている窓口対応を実践するための医学的知識とスキルを身につける				
到達目標	医療現場での対応例を習得し、疾患学と診療報酬を結びつけて説明する事が出来る。				
評価基準	実践：40%、期末テスト：30%、授業態度：20%、小テスト：10%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	なし				
関連科目	医事業務実践ベーシックBⅠ・医事業務実践ベーシックBⅡ・医事業務実践ベーシックAⅠ・ 医事業務実践ベーシックAⅡ・疾患学Ⅰ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	—			実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	はじめに 感染症の理解	授業の目的・目標・進め方の説明 各種ウイルスの感染経路、スタンダードプリコーションについて
2	感染症対策① (空気、飛沫感染)	手指消毒、うがいの実践 マスクの正しいつけ方について
3	感染症対策② (飛沫、接触、血液媒介感染)	感染経路別予防策について 手袋、防護具の装着法、リネンの取り扱いについて
4	感染症対策③	医療器具の洗浄、滅菌について
5	感染症に対する対応実践	感染疑いのある患者来院時の対応実践を行う 感染疑いのある患者来院時の事前準備、到着後対応について
6	小テスト（感染症対策）	感染対策が円滑にできるか確認テストを行う

7	車いす、つえ使用実践	車いすの出し方、移動方法、たたみ方について 車いすの出し方、移動、たたみ方の実践を行う
8		
9	疾患別対応① (高血圧、糖尿病、心疾患)	高血圧、糖尿病患者の症状、対応策について 心疾患患者の症状、対応策について 胸痛の種類、心臓カテーテル検査の注意点について
10		
11	疾患別対応②(消化器疾患) シミュレーション実践準備	消化器疾患の受診に適した診療科案内について 指定難病(潰瘍性大腸炎、クローン病)の症状、対応策(検査、投薬、食事)症状悪化時の対応、 内視鏡検査の注意点、人工肛門の取り扱い、来院時に必要なものについて
12		胃、十二指腸疾患患者の症状(検査、投薬、食事)について ヘリコバクターピロリ検査について
13		
14	骨折とギプスの関係 シミュレーション実践準備	各種骨折の理解、骨折部位毎のギプス、シーネの巻き方について
15	期末テスト	疾患毎の対応策が理解できているかテストを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	医科医療事務 A I		
必修選択	必修	(学則表記)	医科医療事務 A I		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	医療秘書科・診療情報管理士科	2	60
使用教材	①診療報酬点数早見表②カルテ問題集③薬価・薬効表④早見表 ⑤医療事務テキストⅠ・Ⅱ⑥検定過去問題集 ⑦医療秘書技能検定問題集 3 級②			出版社	①医学通信社②～⑤ユアサポート ⑥全国医療事務教育協議会⑦つちや書店

科目の基礎情報②

授業のねらい	点数表を読み内容が理解でき、様々な算定に対応できる力を習得する				
到達目標	点数表を読みこみ、医科・調剤のレセプトのポイントを述べることができる 医療事務検定1級、医療秘書技能検定3級が合格できる				
評価基準	評価テスト60%、提出物20%、授業態度20%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	医療事務検定1級、医療秘書技能検定3級（第3領域） 診療報酬請求事務能力認定試験				
関連科目	医科医療事務AⅡBⅠⅡ、医療秘書概論				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	尾石 陽子、倉柳 直子			実務経験	○
実務内容	(尾石) 医療事務コンピュータ会社でインストラクターとして7年 (倉柳) 病院にて、医療事務員として28年従事				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	医療事務とは	オリエンテーション（目的、授業内容、検定について） 医療保険の種類、医療機関の種類、カルテの上書きについて
2	初診料、再診料	初診料、初診料加算 再診料 再診料加算 外来診療料 外来診療料加算について
3	医学管理	特、薬情、情、乳栄、喘息、外栄、皮膚、耳鼻、ウについて
4	医学管理、在宅医療	医学管理の続き 在宅医療 往診料について
5	投薬	薬剤の種類、薬剤料の計算方法（内服薬、頓服薬、外用薬）について
6	投薬	調剤料、処方料、調剤基本料、処方箋料について
7	注射	薬剤料、手技料 IM、IV、点滴、その他の注射、注射手技料の加算について
8	処置	通則（簡単な処置、対称器官、時間外加算） 点数表、テキストに沿って主な処置の説明について

9	手術	通則（対称器官、同一手術野、年齢加算、時間外加算） 点数表、テキストに沿って主な手術の説明について
10	麻酔、リハビリ	麻酔・神経ブロック：通則（前処置、年齢加算、時間外加算）点数表、テキストに沿って主な麻酔（閉麻を除く）について リハビリ：通則、疾患別リハビリテーション 精神科専門療法、放射線治療について
11	評価テスト	評価テストの実施
12	検査	検体検査料：判断料、緊検、外迅検、尿検査～微生物学的検査
13	検査、病理判断	生体検査料：判断料、年齢加算、対称器官、心機能学的検査～について 病理診断料：診断料、判断料、病理学的検査～について
14	画像診断	緊画、画像診断管理加算 エックス線診断料、コンピュータ断層診断料、判断料について
15	在宅医療、医学管理 前期のまとめ	在宅医療：在宅自己注射指導管理料、訪問診療、訪問看護について 医学管理：薬、悪、てんかん、疼痛などについて 前期まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	医科医療事務BⅠ		
必修選択	必修	(学則表記)	医科医療事務BⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	医療秘書科・診療情報管理士科	2	60
使用教材	①診療報酬点数早見表②カルテ問題集③薬価表④早見表 ⑤医療事務テキストⅠ・Ⅱ⑥検定過去問題集 ⑦医療秘書技能検定問題集3級②			出版社	①医学通信社②～⑤ユアサポート ⑥全国医療事務教育協議会⑦つちや書店

科目の基礎情報②

授業のねらい	カルテ内容を理解し、正確にレセプト作成ができる力を備える				
到達目標	点数表を読み込み理解し、入院・外来レセプトを作成することができる 医療事務検定1級、医療秘書技能検定3級が合格できる 調剤報酬のレセプトを作成することができる				
評価基準	前期：単元ごとの小テスト30%、評価テスト40%、提出物・授業態度30%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	医療事務検定1級、医療秘書技能検定3級（第3領域） 診療報酬請求事務能力認定試験				
関連科目	医科医療事務AⅠⅡ、BⅡ医療秘書概論				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	尾石 陽子、倉柳 直子			実務経験	○
実務内容	(尾石) 医療事務コンピュータ会社でインストラクターとして7年 (倉柳) 病院にて、医療事務員として28年従事				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	レセプトの上書き	カルテ問題集 No1～10について実践
2	初診・再診料の算定	カルテ問題集 No1～6について実践
3	医学管理	カルテ問題集 No1～6について実践
4	医学管理 在宅医療	カルテ問題集 No7～10、4について実践
5	投薬	カルテ問題集 No1～10について実践
6	投薬	
7	注射	カルテ問題集 No5～8について実践
8	処置	カルテ問題集 No7～10、4について実践

9	手術	カルテ問題集 No10～12について実践
10	麻酔 リハビリ	カルテ問題集 No10～13について実践 No10までの仕上げる
11	検査	カルテ問題集 No11～15について実践 No11を仕上げる
12	検査	カルテ問題集 No12～15 No13までの仕上げる
13	画像診断	カルテ問題集 No14～25まで仕上げる
14	テスト	テストを実施する
15	在宅医療、医学管理 前期のまとめ	テストの振り返りとまとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	医科医療事務 A II		
必修選択	必修	(学則表記)	医科医療事務 A II		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	医療秘書科・診療情報管理士科	2	60
使用教材	①診療報酬点数早見表②カルテ問題集③薬価・薬効表④早見表 ⑤医療事務テキストⅠ・Ⅱ⑥検定過去問題集 ⑦医療秘書技能検定問題集 3 級⑧ ⑨調剤事務テキスト一式			出版社	①医学通信社②～⑤ユアサポート ⑥全国医療事務教育協議会⑦つちや書店 ⑧日本医療事務協会

科目の基礎情報②

授業のねらい	点数表を読み内容が理解でき、様々な算定に対応できる力を習得する				
到達目標	点数表を読みこみ、医科・調剤のレセプトのポイントを述べることができる 医療事務検定1級、医療秘書技能検定3級が合格できる				
評価基準	評価テスト60%、提出物20%、授業態度20%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	医療事務検定1級、医療秘書技能検定3級（第3領域） 診療報酬請求事務能力認定試験、調剤薬局事務検定				
関連科目	医科医療事務AⅠBⅠⅡ、医療秘書概論				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	尾石 陽子、倉柳 直子			実務経験	○
実務内容	(尾石) 医療事務コンピュータ会社でインストラクターとして7年 (倉柳) 病院にて、医療事務員として28年従事				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	前期の復習 入院と外来の違い	復習：学科問題実施 調剤料、IM・IV、点滴、処置、検査について
2	入院に関わるその他のもの	医学管理：薬管、手前、手後、肺予 輸血、麻酔（閉鎖循環式全身麻酔）について
3	入院基本料 入院基本料等加算	一般病棟入院基本料、有床診療所入院基本料 入院基本料等加算について
4	入院時食事療養費	入院基本料等加算つづき 入院時食事療養費について
5	医療秘書技能検定対策	医療秘書技能検定3級に向けた対策
6	医療事務検定1級対策	医療事務検定1級に向けた対策
7	医療事務検定1級対策	医療事務検定1級に向けた対策
8	医療事務検定1級対策	医療事務検定1級に向けた対策

9	医療事務検定1級対策	医療事務検定1級に向けた対策
10	診療報酬請求事務能力認定試験対策	複数の点数区分に当たる閉鎖循環式全身麻酔、人工透析、自己血輸血、中心静脈注射について 過去問題集：学科
11	調剤事務	薬の基礎知識、医療保険制度の概要、保険調剤の実務、薬剤料の算定について
12	調剤事務	調剤技術料、薬学管理料について
13	調剤事務	その他の算定例、レセプトの作成について
14	調剤事務 テスト	処方箋問題集 評価テスト実施
15	1年間の総まとめ	テストの振り返りと総まとめ 総括、医療事務検定2級対策

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	医科医療事務 B II		
必修選択	必修	(学則表記)	医科医療事務 B II		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	医療秘書科・診療情報管理士科	2	60
使用教材	①診療報酬点数早見表②カルテ問題集③薬価・薬効表④早見表 ⑤医療事務テキストⅠ・Ⅱ⑥検定過去問題集 ⑦医療秘書技能検定問題集 3級⑧ ⑨調剤事務テキスト一式			出版社	①医学通信社②～⑤ユアサポート ⑥全国医療事務教育協議会⑦つちや書店 ⑧日本医療事務協会

科目の基礎情報②

授業のねらい	カルテ内容を理解し、正確にレセプト作成ができる力を備える				
到達目標	点数表を読み込み理解し、入院・外来レセプトを作成することができる 医療事務検定1級、医療秘書技能検定3級が合格できる 調剤報酬のレセプトを作成することができる				
評価基準	後期：単元ごとの小テスト20%、評価テスト：調剤25% 医事25%、提出物・授業態度30%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	医療事務検定1級、医療秘書技能検定3級（第3領域） 診療報酬請求事務能力認定試験、調剤薬局事務検定				
関連科目	医科医療事務AⅠⅡ、BⅠ 医療秘書概論				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	尾石 陽子、倉柳 直子			実務経験	○
実務内容	(尾石) 医療事務コンピュータ会社でインストラクターとして7年 (倉柳) 病院にて、医療事務員として28年従事				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	前期の復習 入院と外来の違い	復習：外来レセプト1枚作成 カルテ問題集 No29、30について実践
2	入院にかかわる その他のもの	カルテ問題集 No31、32について実践
3	入院基本料	カルテ問題集 No29、30について実践
4	入院基本料等加算 入院時食事療養費	カルテ問題集 No31、32について実践
5	医療秘書技能検定対策	医療秘書技能検定3級に向けた検定対策
6	医療事務検定1級対策	カルテ問題集 医療事務検定1級に向けた対策
7	医療事務検定1級対策	カルテ問題集 医療事務検定1級に向けた対策
8	医療事務検定1級対策	カルテ問題集 医療事務検定1級に向けた対策

9	医療事務検定1級対策	カルテ問題集 医療事務検定1級に向けた対策
10	診療報酬請求事務 能力認定試験対策	診療報酬請求事務能力認定試験に向けた対策 外来・入院レセプト
11	調剤事務	処方箋問題集 No1～No10
12	調剤事務	処方箋問題集 No11～No15
13	調剤事務	処方箋問題集 No16～No22
14	調剤事務 テスト	処方箋問題集 No23～No25、 評価テストを実施
15	1年間の総まとめ	テストの振り返りと総まとめ 医療事務検定2級対策

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実習	科目名	医療機関実習Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	医療機関実習Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	医療秘書科・医療AI科	1	40
使用教材	①新版医療の接遇		出版社	①医療タイムズ社	
	②窓口事務【必携】ハンドブック 2024			②医学通信社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	早期に医療機関の現場を知ること、学内の学習以外に必要な知識・力があるということを理解する。 自分たちが将来進むべき業界の理解と今後身に受けるべき知識を理解し、今後の学習につなげる。				
到達目標	医療機関での業務の流れの概要をおおまかに知っている状態 2年生の実習・就職に向けて、現状の自分に足りないものを気が付けている状態				
評価基準	①実習先（病院）評価 60% 評価票 A（15点） B（10点） C（5点） D（0点） ②学校側評価 40% （振り返りレポート25% 実習手帳15%）				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	なし				
関連科目	医事業務実践ベーシックAⅠ・AⅡ・BⅠ・BⅡ・C				
備考	なし				
担当教員	渡邊 みなみ、阿部 笑里			実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	アビリティUpⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	アビリティUPⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	医療秘書科	1	15
使用教材	①入学前教育プログラム 学ぶ力の基礎コース総合テキスト ②基礎から学べる！文章カステップ文章検4級対応			出版社	①進研アド ②日本漢字能力検定協会

科目の基礎情報②

授業のねらい	社会人として必要な一般常識を身に付ける。 文章を「書く力・読み取る力」を養う。				
到達目標	使用教材にある演習問題を理解し、解答ができる。 作文、自己紹介文を書く準備が整う。				
評価基準	学期末テスト：70% 提出物：30%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	なし				
関連科目	医科医療事務AⅠ・医科医療事務BⅠ・ビジネスマナーⅠ・プレゼンテーション実践Ⅰ				
備考	原則、この科目はオンデマンド型遠隔授業形式にて実施する。				
担当教員	福永 裕佳里			実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	導入	授業の目的、進め方／教材の使用方法について
2	計算①	仕事にまつわる計算（％、平均など）（教材① p32～）
3	計算②	およその数（教材① p36～）／四捨五入、「以上」「未満」など
4	計算③	割合（教材① p38～）／電卓の機能
5	計算④	単位（教材① p34～）／単位の換算
6	日本語①	読む力、助詞、正しい語句の選択（教材① p2～）
7	日本語②	慣用句、敬語（教材① p6～）
8	日本語③	正しい文の選択、簡単な文章の作成（教材① p10～）

9	文章作成①	語句の正しい使用方法、文法（教材② p10～）
10	文章作成②	資料から情報を読み取る（教材② p18～）
11	文章作成③	指示語、接続語、段落の役割（教材② p28～）
12	日本語④	熟語、四字熟語、カタカナ語（教材① p14～）
13	日本語⑤	読む力②（教材① p16～）／医療事務員として必要な漢字
14	確認テスト	前期分確認テスト（2～13回の内容）
15	総まとめ	テストの振り返り／総まとめ／社会人として必要な知識

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	アビリティUpⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	アビリティUPⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	医療秘書科	1	15
使用教材	①入学前教育プログラム 学ぶ力の基礎コース総合テキスト ②基礎から学べる！文章カステップ文章検4級対応			出版社	①進研アド ②日本漢字能力検定協会

科目の基礎情報②

授業のねらい	社会人として必要な一般常識を身に付ける。 文章を「書く力・読み取る力」を養う。				
到達目標	使用教材にある演習問題を理解し、解答ができる。 作文、自己紹介文を書く準備が整う。				
評価基準	確認テスト：70% 提出物：30%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	なし				
関連科目	医科医療事務AⅡ・医科医療事務BⅡ・ビジネスマナーⅡ・プレゼンテーション実践Ⅱ				
備考	原則、この科目はオンデマンド型遠隔授業形式にて実施する。				
担当教員	福永 裕佳里			実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	英語	曜日、月などの基本的な英語表記
2	社会	人の権利、個人情報保護、社会保障（教材① p 70～）
3	道徳	日本の文化（教材① p 64～）
4	計算⑤	データ、グラフの読み取り、平均（教材① p 40～）
5	計算⑥	計算の基本ルール、（ ）のある計算（教材① p 46～）
6	日本語⑥	伝える力、敬語（教材① p 60～）
7	文章作成④	新聞記事を読み取り、伝える
8	文章作成⑤	表現の方法、語尾の使い分け、文章の推敲（教材② p 48～）

9	文章作成⑥	小論文と作文の違い、意見文について（教材② p54～）
10	文章作成⑦	意見文の作成①（教材② p58～）
11	文章作成⑧	意見文の作成②（教材② p64～）
12	文章作成⑨	決められたテーマに沿って小論文を書く
13	グループディスカッション	集団面接とは／就職活動におけるグループディスカッションの位置づけ、テーマ
14	確認テスト	前期・後期分の総合的な確認テスト
15	総まとめ	テストの振り返り／総まとめ／SPI